

Column

無形文化遺産のレスキューと防災

Intangible Cultural Heritage Rescue and Disaster Preparedness

以前、このコラムの中で「シリーズ 文化財レスキュー活動」として東日本大震災後の文化財レスキューが紹介されましたが、今回は無形文化遺産に関するレスキューとその防災について触れてみたいと思います。無形文化遺産とは、人が担うもの——例えば芸能や工芸技術、あるいは風俗慣習などを指しています。ことに全国には、風俗慣習・民俗芸能・民俗技術といった地域コミュニティの中で伝えられてきた、「無形民俗文化財」が数多くあります。こうした無形文化遺産の災害レスキューは、可能なのでしょうか。

1. 東日本大震災からの復興

無形文化遺産のレスキューなど、形がないのだから無理だという考え方もあります。人間が伝えるものなのだから、人命救助をすることがすなわち無形文化遺産のレスキューだという考え方もできます。確かに東日本大震災後の文化財レスキューでは、無形文化遺産はその対象とはなりませんでした。

ところが震災からしばらくすると、祭りや民俗芸能に携わっていた被災者たちが、瓦礫の中から道具や楽器を拾い集め、なんとかして再開させたいという声があがってきました。無形とはいえ、仮面やカシラ、太鼓や笛といった有形のものは必要です。回収できたものもありましたが、流失した道具類も少なくありません。ただし、有形文化財は失ってしまえばそれきりですが、無形の場合は作り直すことができます。幸いにも民間の財団や団体などがその価値に気づき、支援の手が差し伸べられました。文化庁の補助事業なども応用され、失われた道具類は次々と再建されました。

けれども道具が戻れば復活できるのかといえば、そうでもありません。集まって練習する場所が必要となります。祭りを行う社寺や街路を失った地域では、形を変えて再開せざるを得ません。演じる側だけではなく、見る側・受け入れる側も復興しないことには、元通りの伝承にはなりません。

無形文化遺産のレスキューとは、結局こうした様々な要素を、長期にわたって支えるということです。レスキューというより、災害リスクマネジメントと称した方がよいのかもしれませんが、いずれにしても、震災から5年を経ても、無形文化遺産の復興は未だ途上にあるといえましょう。

2. 無形文化遺産の防災とはなにか

それでは今後起こり得る災害に向けて、無形文化遺産の防災とは何をすればよいのでしょうか。レスキューで述べたように、人が伝えるものなのだから、人命が助かるための防災こそ無形文化遺産の防災だということは事実です。

けれども東日本大震災で得た教訓から、無形文化遺産の防災として行うべきことも少しずつ見えてきました。まず、数多くある無形文化遺産の所在確認をしっかりと行うこと。実は、東日本大震災で被害を受けた多くの民俗芸能は、その大半が県や市町村の文化財指定を受けていないものでした。それゆえ、どのような無形文化遺産が被害を受けたのかその実態がなかなかつかめないという事態になってしまったのです。どこにどのような無形文化遺産が存在しているのか、しっかりと把握することが無形文化遺産の防災の第一歩です。

そしてもうひとつ、画像や映像による記録をはじめ、しっかりと記録を残しておくこと。さきほど、震災後に支援を得て、流失した道具類を再建されたことを述べましたが、このとき困ったことが起きました。例えば獅子舞のカシラを復元しようにも、それが写った写真などもすべて流されたために、もともとあった形がわからないという事態となったのです。獅子を彫る職人が、何度も現地に足を運び、話を聞きながら少しずつ復元に努めたそうですが、中にはまったく異なる形になってしまったところもあります。

こうした記録は、地震や津波など災害対策ばかりでなく、過疎や少子高齢化等によって生じている消滅の危機対策にも有効となりえます。そのような観点でいえば、無形文化遺産はその性質上、常に変容・消滅のリスクにさらされている文化財であり、そこにどのように対処してゆくかということも、大きな課題なのです。有形文化財であれば、とにかくその形を残すことが優先されるわけですが、無形の文化財の場合にはそれを伝承者に強いることはできません。伝承者や地域の状況によって、変容・消滅が起きることは避けられないのです。だからこそ記録が重要なものであり、またその価値を再認識してもらうような働きかけを行うことも必要とされます。こうした様々な試みが、結果として無形文化遺産の防災につながっていくのでしょうか。

3. 無形文化遺産部の試み

無形文化遺産部では、東日本大震災後に全日本郷土芸能協会・儀礼文化学会・防災科学技術研究所と協働にて「無形文化遺産情報ネットワーク」を立ち上げ、無形文化遺産の被災・復興情報を共有してきました。これは、被災した東北太平洋岸のどこにどのような無形文化遺産が存在しているのか、ウエブ

上でリストや地図を用いて共有できるようにしたものです。また、それを発展させ、画像や映像を保存し閲覧できるようにした「無形文化遺産アーカイブス」も稼働しはじめました。これは東日本大震災の被災地に限定したのですが、現在は防災の観点からその全国版をつくるべく準備を進めているところ です。残念なことに、熊本地震はそうした作業を始めた矢先での災害でした。

そして震災によって失われた暮らしの記録を「民俗誌」という形で残す作業も、継続して行っ ています。岩手県大船渡市の碁石地区については既刊、宮城県女川町の北浦地区と福島県浪江町の 苧宿地区で調査を進めています。集落の解散や高台移転を強いられた地域で、また原子力発電所の事故で帰還が 難しい地域で、無形文化遺産がどのように変容するのかしないのか、しっかりと見ていく必要がありま す。またそこに暮らしてきた方々に、私たちの手法をもって暮らしの記録を残すことができれば、これもま た有意義な文化財レスキューになるのではないかと考えています。

(無形文化遺産部・久保田裕道)

Digest

Although work was undertaken to rescue cultural properties following the Great East Japan Earthquake of 2011, these rescue efforts did not extend to intangible cultural heritage. However, following the Earthquake there were appeals in many districts for support for the revitalization of intangible cultural heritage that had been affected by the Earthquake. Intangible cultural heritage rescue can be implemented in the form of the long-term, ongoing support required for the revitalization of intangible cultural heritage, for example through assistance with the making of replacements for equipment that has been lost, or help with arranging practice facilities, performance venues, etc.

So how should we approach the concept of intangible cultural heritage disaster preparedness? Firstly, there is the need to have accurate information as to where intangible cultural heritage is located. Secondly, the photographs, video footage, etc. required to help revive intangible cultural heritage when it has been affected by a natural disaster need to be properly recorded and preserved. Having these records available can be an effective strategy not only for dealing with the effects of earthquakes, tsunamis, etc., but also for dealing with the risks posed by depopulation of rural areas and the aging of the population, etc.

The Department of Intangible Cultural Heritage is using the Intangible Cultural Heritage Information Network to collect and make available to the public information about the intangible cultural heritage affected by the Great East Japan Earthquake, and using the Intangible Cultural Heritage Archives to collect and make available to the public relevant photographic images and video footage. These projects are now being expanded to eventually cover the whole of Japan.



支援を受けて復元・新調された獅子頭を使い開催された「女川町獅子振り披露会」。(宮城県女川町)

“Revive! The Lion Dance Performance,” an *shishi furi* performance held in Onagawa-cho using newly-made lion-head costumes following the provision of support from external agencies to help revive the *shishi furi* tradition.



東日本大震災の被災地域における無形文化遺産の情報を収集・発信するウェブサイト。今後は全国版を展開予定。

The Intangible Cultural Heritage Information Network website was established to collect and disseminate information relating to intangible cultural heritage in the regions affected by the Great East Japan Earthquake of 2011. There are plans to expand the scope of the Network's coverage to include the whole of Japan in the future.